

令和3年度 日立市総合教育会議 会議録

日 時 令和4年2月7日（月） 午後2時30分から午後4時まで

場 所 日立市役所（4会場に分かれてのリモート会議）

構 成 員 市長
教育長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員

関 係 者 副市長
市長公室長
教育部長

説 明 員 教育委員会次長（兼）指導課長
教育委員会総務課長
教育委員会学校施設課長
教育委員会学務課長
教育委員会教育研究所長

事 務 局 教育委員会総務課職員

議 題

I C Tを活用した学校教育の推進について

傍 聴 者 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため傍聴無し。

※ 読みやすさ等を考慮し、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 部 長

ただ今から「令和3年度日立市総合教育会議」を開会いたします。
本日の総合教育会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年と同様、市役所内の4会場に分かれてのリモート会議形式での開催といたします。

また、総合教育会議は原則公開となっておりますが、今回は、傍聴を制限し、後日、本日の議事録を公開し、会議内容を公表することといたします。

本日の議題は、「ICTを活用した学校教育の推進について」でございます。

会議の進行は小川市長にお願いいたします。

市 長

みなさんこんにちは。

本日はお忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。
御案内のように、総合教育会議は、毎年市長部局と教育委員会が一体となって日立の教育を進めていくための非常に重要な場となっております。

振り返りますと、昨年の総合教育会議は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、リモート会議形式で開催いたしました。

今年は、一堂に会して開催をしたかったところですが、新型コロナウイルス感染症が再拡大している状況を踏まえ、昨年に引き続きリモート会議形式で開催することといたしました。

この2年間、コロナが私たちの生活に大きな影響を与えてきました。負の面があった一方で、従来では「出来ない」としていたことを「出来るように工夫する」など、新しい生活の中で、柔軟な発想を持って進めてこられたことも多かったのではないかと思います。

本市では、今年度、今後10年の日立市のまちづくりの指針となる総合計画の策定を進めており、基本構想については、昨年の12月に市議会で議決をいただきました。

現在は、前期基本計画の策定作業が順調に進んでおり、3月に市議会で審議いただき、決定をしていく流れになります。

現総合計画期間の10年間については、東日本大震災という大きな想定外の出来事があり、その復興に注力をしてまいりました。

そこに更に、新型コロナウイルスという新たな脅威が現れ、非常に苦労の多い10年を過ごしてきたと思っております。

苦労の多かったこの10年間にまちづくりに取り組んできた想いを、次の10年につなぎ、また新たな風を吹きこみながら、全ての方々が幸せを感じられるような、そんなまちづくりをしていきたいと思っております。

次期総合計画では、人材育成を重点事項の1つとして柱建てしております。将来を担う子どもたちの教育を考えていくことは、極めて大事なことであり、まさに、未来を紡ぐということにつながっていくことだと思っております。

今回の総合教育会議は、次期総合計画に触れながらICTを活用した学校教育の推進について、意見交換を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議 題

ICTを活用した学校教育の推進について

市長 本日の議題は、「ICTを活用した学校教育の推進について」でございます。

まず、学校でのICTの活用状況として、学校におけるICT環境の整備や活用の現状を事務局から説明をいただきます。

質問を挟みまして、続けて「デジタル時代の質の高い学校教育の実現に向けて」として、これからの方向性や取組について説明を受けた後、意見交換を進めてまいります。

それでは初めに、指導課長から説明をお願いいたします。

指導課長 1番、「学校でのICTの活用状況」について、御説明いたします。まず、本市のICT環境の整備の状況です。

御案内のとおり、国のGIGAスクール構想の前倒しに伴い、本市でもICT環境の整備を急ピッチで進めたところです。

令和2年度末には、児童生徒の1人1台タブレットの配備とすべての普通教室へのプロジェクターと書画カメラの配備、そして学校の高速な情報通信ネットワークの整備を完了いたしました。

また家庭学習時への対応として、モバイルWi-Fiルーターの無料貸出しの備えをいたしました。

今年度、プロジェクターの契約更新に伴い、一部の学校に電子黒板を導入しております。

学習に広がりが出るという先生方の声もいただいております、電子黒板への段階的な移行を進めてまいります。

今後は、デジタル教科書の導入、教職員用タブレット型パソコンの導入について検討を進めてまいります。

また、デジタルの分野は日進月歩であり、随時検討を加えていく必要があるものと考えております。

次に学校でのICTの活用状況について御説明いたします。

昨年度の総合教育会議では、1人1台タブレット等のICT環境の整備により、タブレットが鉛筆や消しゴムと並ぶ学びの道具になり、教室で日立と世界がつながる環境を整うため、今後はICTの特性を活用した学校教育を推進していくということを御説明いたしました。

今までも学校では、プロジェクターを活用した授業やプログラミングの授業などを進めてきたところですが、前倒しで整備されたICT機器をいかに活用するかということについては、学校から不安の声も聞かれたところです。

そのため、令和3年度は、現場の不安を解消しICTを効果的に活用できるような体制の整備に力を注いでまいりました。

具体的な取組として、まず、市内各学校では、情報教育主任がICT教育の中心となり、先生方の疑問や悩みを校内で解決していただけるような体制をとっております。

これによって、先生方同士の情報の共有や技術力、課題解決力の向上など、学校のチーム力が発揮されております。

そして、市教育委員会では、学校をバックアップできる取組を検討し、具体的には、「GIGAだより（ICT教育通信）の発行」、「GIGAスクールハンドブックの発行」、「ICT支援員の配置」、「学校へのバックアップ体制の確保」などに取り組んでおります。

「GIGAだより（ICT教育通信）」は、市から先生方へのICTを活用した教育の情報提供として、定期的に発行をしており、令和3年4月に第1号を発行後、現在までに12号を発行しております。

機器の使用例や授業実践の紹介などの情報を、学校に提供することで、市内全体のICT活用力の向上を図ります。

次に「GIGAスクールハンドブック」です。

こちらは、日立市が独自で作成した、学校でのICT活用に係るマニュアル・事例集です。

ICTを活用した指導内容や機器操作のマニュアル、学校内研修で利用できるような資料など、基本的なことを確認できる内容となっています。

初版を令和3年9月に発行後、現在までに補足の追加を2回行っており、今後も、随時必要な情報の見直しを進めてまいります。

次に「ICT支援員」についてです。

タブレット1人1台配備に伴い、令和3年9月からICT支援員4人が小学校に月2回、中学校に月1回定期的に訪問をしております。

ICT支援員は、主に、各学校の授業支援として、授業前のICT機器の準備や動作確認、授業中の操作支援や補助などを行っており、また、各学校の実態に応じて必要な校内研修を実施しております。

学校からは、リモート授業を行う際の技術的サポートがとてもありがたかったとの声が届いております。

ICT支援員の増員については、各校の活用状況を把握した上で、検討してまいります。

次に、ICT機器を活用した学校での授業の実践について、いくつかを御紹介いたします。

まず、資料にありますように、画像や動画をプロジェクター等で大きく映し、興味や関心を高めたり、動画で繰り返しの確認を行うこと

で、理解を深めたりすることができます。

体育の授業では、撮影した動画を確認しながら、課題を発見・把握し、お互いにアドバイスをしあったり、自分自身で修正を図ったりすることができます。

動画の撮影機能は、W i - F i 環境が整っている場所であれば、様々な教科や活動に活用の幅を広げていくことが期待されます。

1人1台のタブレットは、グループ学習でも有効に活用ができます。

複数のメンバーが1つのファイルを同時に開き、作業ができる機能を活用し、それぞれが調べ・考えたことを同時に編集作業することで、協働的な学びの取組を効率的に行い、話し合いの時間を確保することができます。

学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、個々の回答や意見、考えを可視化できる機能を活用し、みんなの考えの傾向と自分の考えをリアルタイムで比較したり、自分の考えの確認や見直しを進めたりすることができます。

例えば、家庭科の時間の裁縫の授業では、動画を繰り返し確認したりしながら、自分のペースで縫い方を習得できます。

また、A I ドリルは、システムがそれぞれの児童生徒の理解度を自動で判断し、苦手な問題を復習できるよう学習指示をしてくれるので、これを活用し、1人1人の理解度に応じた学習に取り組むことができます。

また、リモート会議機能を活用し、様々な分野で活躍する方から指導を受けることができます。

具体例としては、プログラミングの学習で、大学とオンラインでつながり、指導を受けた事例や、郷土博物館とつないで本市の歴史を学習した事例、市役所防災対策課とつないで、防災について学習した事例などがあります。

昨年9月の自宅学習期間には、1人1台のタブレットを活用し、リモートで朝の会を行い、顔を見ながらの健康観察や学習課題の指示を行いました。

また、全ての学校で、オンラインによる授業の試行を行いました。

これにより、不登校の児童生徒がオンラインの学習等に参加できた事例も複数見られました。

こういった実践から、I C Tの活用が、すべての子どもたちの学びにつながるということを改めて認識いたしました。

コロナ禍で急速に進んだ学校のI C T環境は、誰一人取り残さない教育の実現に向けたツールとなることを実感しております。

9月の自宅学習期間終了後に、アンケートを実施し、市内約300人の先生方から回答を得ました。

まず、①「オンラインによる指導力が身についた」と回答した割合は、「できるようになった」と「ある程度はできるようになった」を合わせると、300人中295人と98%に上りました。

また、②「オンラインによる朝の会や学習支援がうまくいった」と回答した割合は、「うまくいった」と「まあまあうまくいった」を合わせると、300人中281人、94%という結果となりました。

先生方が、自宅学習期間中にオンラインでの学習について概ね支障なく取り組むことができるようになっていたことが分かりました。

また、アンケートの自由意見から、オンライン活用の成果として、「自宅学習期間中でも、児童生徒の声や表情、家庭での様子が把握できた」、「不登校傾向にある生徒や集団が苦手な生徒がオンライン授業に参加できた」、「ICTを活用するスキルが上がった」などという声が聞かれました。

一方で、課題としては、「ICT活用のスキルは教師間で差が大きいことから、教師間のスキルを平準化するために、学校内での事前の準備や研修に多くの時間を費やした」や「Wi-Fiの通信量が足りなくなり、制限がかかった児童には、電話やプリントで個別に対応する必要があった」という声がありました。

市としては、こういった声も受け、先程御説明いたしました「GIGAだより」を活用しての情報提供や「GIGAスクールハンドブック」による補足追加、Wi-Fiルーターの交換等の対応について、各校の支援に取り組んでいるところです。

「学校でのICTの活用状況」については、以上でございます。

市長 私も先日、市内の小学校に伺い、ICT機器が実際の授業にどのように使われているのかを見学させていただきました。

説明にもありましたように、ICT機器を活用しながら先生たちの創意工夫と子どもたちの学ぶ意欲によって新しい学びの世界が生み出されておりました。

子どもたちが、タブレットや電子黒板を生き生きと使いこなしている様子や先生と一体となって授業を進めている様子を見て、嬉しく、また心強く感じ、子どもたちと先生方の学習環境の充実に取り組んでいきたいという思いを、より一層強くしたところでございます。

それでは、ここまでの事務局の説明について、委員の皆さまから御質問があればお願いいたします。

委員 今の説明で市内の学校でのICTの活用に関する環境整備が、ハード面でもソフト面でも本当に充実してきたということが分かりました。子どもたちにとっても先生方にとっても、ありがたいことだと思っております。

質問ですが、オンライン活用の課題にもありましたが、心配なのは、どの学校、どの先生方もきちっと使えるようになるのか、ということです。

先生によって、ICTのスキルに差があるのではないかと思います。それによって子どもたちがどの学級でもしっかりと使っているの

かということが心配です。

市でもいろいろな形で研修などの支援をしていることと思いますが、先生のスキルの差を埋めるためにこれからどのようなことをしていくのかということをお教えください。

市長 委員からの御質問に対して、事務局からお答えをお願いします。

指導課長 この度のICT端末の前倒しの整備について、学校では本当に至急の対応が求められました。

それに伴って学校間での格差、取組の差を生まないように、市教育委員会一同でセキュリティの部分、取り扱いの部分も含めてリモートでの学習の支援などを行ってまいりました。

今後は、各学校の情報教育主任を中心とした体制を整え、ICT支援員とともにサポートしながら、さらに活用の幅を広げていこうと考えております。

今年度各学校で様々な実践事例の報告が上がってきております。

すぐに他の学校でも使えそうな事例もありますので、そういった好事例を集約して、共有しながら段階的に取組を進めていきたいと考えております。

年度ごとに重点とする取組事項を示していくことも大事だと思っております。

昨年度は、プログラミングを重点的に行ってきました。

今後は、各学校のICT活用の好事例を集約し、各学校で共有した上で、各学校で実践していき、授業導入での活用や協働的な学びでの活用などの重点を定めて、各校が同じ方向を向いて取り組んでいければと考えております。

市長 御質問があったように、先生方のスキルの差は子どもたちのスキルの差にもつながってしまうと思います。

スタートのタイミングである今の時点で、できるだけ先生方のスキルを標準化、平準化しながら進めていくことが大事だと思います。

情報教育主任の先生が各学校にいるわけですが、これからは、先生方の人事異動も含めて、いろいろ対応を考えていく必要があるということをお改めいたしました。

委員 子どもたちに不公平にならないように先生方も頑張ってもらいたいし、市の方でも支援してほしいということをお願いしたいと思っております。

市長 ありがとうございます。

他に御質問が無いようでしたら次に、「デジタル時代の質の高い学校教育の実現に向けて」について、教育委員会総務課長から説明をお

願いたします。

総務課長

それでは、2番、「デジタル時代の質の高い学校教育の実現に向けて」について、御説明いたします。

(1) 「学校教育」への市民の声についてです。

日立市の目指す将来像や、その実現のための基本的な考え方や施策をお示しするまちづくりの計画、現在の日立市総合計画は、令和3年度が最終年度となるため、今年度、次期総合計画の策定作業を進めております。

次期計画の策定に向けた市民アンケート調査の結果から、「学校教育」への市民の声を御紹介します。

まず、現在の施策への評価です。

評価が高かった上位の施策を表に記載しておりますが、施策「学校教育」の評価は、45施策中1位という結果となりました。

これまで「教育は日立市で」を目指し取り組んできた内容が、一定の評価をいただいた結果であると捉えております。

次に、今後の重要度です。

市民アンケートで重要度が高かった上位の施策を表に記載しております。

「学校教育」は6位となっており、平成28年度の20位、前回、令和元年度の13位から6位に上昇し、期待度が大きくなっていることが分かります。

次に、現在の評価と今後の重要度の分布図です。

分布図の右上、ピンク色の枠内にある施策は、評価、重要度がともに高い施策を示しています。

「学校教育」については、「現在の評価」と「今後の重要度」の両方が高い施策であり、「現在の高い取組水準を積極的に維持すべき施策」という位置付けになっております。

次に、市民アンケートの自由意見では、ICT教育の推進に関して、「教育のデジタル化を進めるなど、質の高い教育を提供してほしい」、また、「授業の効率化と教育レベルの引き上げのため、ICT（タブレット）や電子黒板を導入してほしい」、「タブレット教材の利用で授業を効率化し、空いた時間で教員と子どもの会話時間を確保することや体験学習を増やすことで、幅の広い人材育成教育を行ってほしい」など、ICT教育の充実を求める御意見をいただきました。

一方で、学校教育の普遍の目標である「知・徳・体のバランスの取れた教育」も求められております。

「感性の育成」、「体づくり」、「思いやりや協力し合う意識」などを育てほしいとの御意見をいただいております。

さらには、ほかの地域の学校教育と差別化できる「ひたらしい教育の充実」を求める御意見もいただきました。

具体的には、「日立市で育った若者が、ハーバード大学に合格した

ことから、日立市の教育をもっとアピールしてほしい」、「小中学校教育に地域福祉や郷土教育などを含めた教育の機会を加えてはどうか」などのお声をいただきました。

ここまで特に学校教育に関係する部分について、市民アンケートの結果を御紹介しましたが、現在、市ではこのような市民の皆様の声をいかしながら、次期総合計画の策定を進めております。

次に、(2)「次期日立市総合計画における「学校教育」の方向性」についてです。

まず、総合計画の構成及び期間です。

総合計画は、大きく2つの構成となっております。

まちづくりの基本理念、目指す将来都市像、将来都市像を実現するための大綱・施策を定める「基本構想」と、基本構想に定める大綱・施策に基づき、実施すべき施策・事業を体系的に定める「基本計画」から構成されています。

基本構想の期間は、令和4年度から13年度までの10年間、基本計画は、前期・後期と分けており、前期が令和4年度からの5年間、後期が令和9年度からの各5年間となります。

次期総合計画の基本構想では、まちづくりの基本理念として、3つの理念「安心とやさしさにあふれるまち」、「活力とチャレンジにあふれるまち」、「「ひたちらしさ」があふれるまち」を掲げております。

また、将来都市像は、「共創」で新たな歴史を刻む「次世代型みらい都市ひたち～人づくり・まちづくり・そしてみんなの幸せづくり～」としております。

資料のとおり「人づくり」、まちの発展を支える人材の育成は、目指すべき将来都市像において、まちづくりの重要な柱となっております。

基本理念と将来都市像の実現に向けて、施策「学校教育」は、大綱2の「教育・文化 未来を拓く人と多様な文化を育むまち」の中に位置付けられています。

この中で、施策「学校教育」は、目標を「生きる力の育成と学習環境の向上」としており、子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、自らの学びを考え、未来を拓く「生きる力」を培うとともに、よりよい学習環境の確保のため、学校再編を進めながら、家庭や地域とともにある学校づくりを推進することとしています。

次に、(3)「ICTの活用による学校教育の深化と進化について」です。

昨年度の総合教育会議において、日立市の今後の目指すところとして「個別最適な学び」と「協働的な学び」、そして「教師の対面指導」と「遠隔・オンライン教育」のそれぞれの良さをいかした学びとして、ひたちの未来を拓く人づくりを目指した「学びのハイブリッド化」をお示いたしました。

ここからは、その「ひたちらしい学びのハイブリッド化」を実現す

るための具体の取組について御説明します。

アからオの5つの取組をお示ししています。

これらの取組は、本日御説明してきた、学校でのICTの活用状況と、学校教育への市民の声、総合計画における方向性を踏まえながら、現在の「日立市教育振興基本計画」で「「ひたちらしさ」を活かした取組」に位置付け取り組んでいるものをベースに、取組の方向性をまとめたものです。

これらの取組は、「今までのひたちらしい取組」に「これからのICTの取組」をプラスして、「ひたちらしい学びのハイブリッド化」を実現していこうというものです。

まず、取組の「ア 授業や自宅学習への活用」です。

今までの、板書が中心の一斉授業、プリントやワークによる自主学習や家庭学習、読み・書きの定着の取組に、プラスして、国が令和6年度の本格的な導入を目指しているデジタル教科書の活用や、AIドリルの活用により個別最適な学びを支援し、学力の向上に結び付けます。

次は、「イ 郷土博物館と図書館等との連携による取組」です。

市の郷土博物館等と連携し、見学で直接体験する機会に、プラスして、遠隔授業でオンラインによるインタビューを行うなど、ICTを活用した体験を併用し、郷土の歴史や文化などについての学びを深めます。

次に図書館との連携です。

日立市では、読書を通し、読解力や思考力、情報活用能力を育み、確かな学力と豊かな心を培っていくため、「子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んでおります。

これからの読書タイムは、プラスして、本市で昨年導入した電子書籍貸出サービスとも連携し、多様な図書との出会いや読書の機会の充実を図ります。

郷土博物館や図書館の他にも、日立市には豊富な教育資源がございます。

これらの施設と連携し、施設の見学、実体験に加え、オンラインでもつながることで、更なる深い学びにつなげていきます。

こうした深い学びは、郷土を深く知り、郷土への想いを高めることにもつながるものと期待しております。

次に、「ウ 国際理解教育の充実」です。

グローバルに活躍できる力を育むため、これまで、小中学校全校へのALT配置や英語体験活動の実施などに取り組んできました。

これからは、プラスして、リモート会議機能を用いて国際親善姉妹都市を始めとする海外の児童生徒との交流により、ネイティブスピーカーと交流できる機会を充実させることができます。

また、本市に住む在住外国人の児童生徒と、交流を深めるツールとしてもICTが活用できます。

次に、「エ 科学学習の推進」です。

本市では、学校教育目標の一つとして「科学する力を養う」を掲げています。

これは、身近な社会や自然の事柄について客観的、分析的に把握し、知らないことや新しいものを発見し、創造していく問題解決能力と態度を育てることを目指すものです。

今まで、特に日立市の人材をいかした「理科室のおじさんの配置」や「日立理科クラブによる授業支援」などに取り組んできました。

これからは、プラスして、整備されたICT環境をいかし、ICT機器の操作能力・活用能力を高め、より多くの児童生徒がオンラインでの専門家との双方向のやりとりで、より深く探求したり、問題解決に取り組んだりする能力を養っていきます。

次に、「オ 不登校対策等への活用」です。

前半にも御説明しましたが、昨年の自宅学習期間中、学校に通えない子やクラスに入れない子がオンライン学習等に参加できる事例が複数見られました。

学校教育の大きな課題である不登校支援につなげることができたことは、児童生徒1人1台タブレット配置の効果であったと思います。

適応指導教室「ちゃれんじくらぶ」や、先生方、相談員、スクールカウンセラーによる対面での支援を大切にしながら、更にプラスして、ICTを活用し、一人一人に寄り添う教育の実現に取り組んでまいります。

これまで、本市では、日立市の自然や、先人から受け継いできた知恵や技術、地域資源などを、未来を担う子どもたちの学びにつなげることができるよう、教育の取組を積み上げてまいりました。

これからは、これまでの取組に、ICTの活用をプラスすることで、「ひたちらしい教育」を深め、進化させ、「ひたちらしい教育」のアップグレードを図っていきたいと考えます。

そして、「ひたちらしい教育」を、ICTの活用によりアップグレードすることで、「教育は日立市で」を実現し、子どもたちが持続可能な社会を創り・支える、未来を拓く人材に成長できるよう、日立市として取り組んでまいります。

説明は、以上でございます。

市長

説明にもあったとおり、学校教育への市民の皆様からの評価と期待、未来を担う子どもたちへの期待というものを感じたところです。

次期総合計画の策定に当たりましても、将来都市像に人づくりを一番最初に挙げているところです。どのように世の中が変わろうとも、人づくりは未来永劫大切にすべきものと思っております。

Society5.0の世の中では、あらゆる分野でデジタル化に対応することが求められており、小中学校の義務教育期間中にデジタル社会で生

き抜いていく基礎的な力を身に付けさせるということが、非常に大事なことだと思っております。

教育委員会からも今まで積み上げてきた「ひたちらしい学び」を大切に、ICTを活用した学びをプラスしていくという方向性を示していただき、5つの具体の取組についての説明がありました。

これからは、全国の市町村が、今までの教育の方法にICTを活用した教育をプラスしていくわけですが、そこにどう「ひたちらしさ」を出していくかということが大事なことだと思います。

ICTを活用したこれからの取組について、委員の皆さまのお考えを伺いたいと思います。

委 員

市長がおっしゃるとおり、デジタル社会で子どもたちが生きていくためには、ICTの操作・技術をマスターしていくことが求められます。

学校現場では、ICT機器の整備が進むとともに、多様な活用が始まっているようなので、説明いただいた方向で進んでいただきたいと思っております。

プラス「ひたちらしさ」というところで、日立市の教育資源は、豊富にあると思っております。日立理科クラブや博物館、図書館もあります。

そういった教育資源をうまく活用しながらICTと組み合わせ、「学びのハイブリッド」という言葉もありましたが、そういう形で進めていくことが「ひたちらしさ」につながっていくのではないかと考えています。

心配されるのは、「学びのハイブリッド化」とか、「個別最適な学びと協働的な学び」といった教育のスタイルがありますが、言葉が先行してしまうということが起こり得るということです。

きちんと実のあるような形で進めていただければと思います。そのためには、先生方にもきちんと研究していただくなどの、準備が必要だと思います。

また、タイムスケジュール又は工程表のようなものを作り、それぞれの年で課題提示をしながら、100%は難しいと思いますので、着実な歩みをしていただければと思います。

働き方改革が進められている中で、先生方の負担にも配慮し、バランスを取りながら、あまり急がずに、一步一步進めていただければと思います。

ICT支援員などの支援もありますが、更なる充実を図っていただく、例えば、一週間に一度訪問していただくなど、現場の先生への支援も進めていただきたいと思います。

もう一つ、電子黒板は、リモートのオンライン授業では有効なツールになっていると思いますので、整備が進んできているのは非常にありがたいと思っております。

もう少し整備のペースを上げていただけると、さらにありがたいと思っています。よろしくお願いします。

市長 委員からの御意見について事務局からお答えをお願いします。

指導課長 委員の御意見は、まさにそのとおりだと思います。

まずタブレット、電子黒板は、これを使うことでどのように豊かな学び、あるいは考えを広げたり深めたりすることができるかという点を踏まえながら、また、実践例を踏まえながら、無理のない範囲で、できるところから活用の幅を広げて子どもたちの学びや学力の向上にいかしていければと考えています。

ICT支援員については、自宅学習期間には、技術的なサポート、授業の進め方について、非常に助かったという報告が学校から上がってきております。

こちらで把握している各学校の活用状況を踏まえながら、先生方の負担軽減を含めて、必要な所に必要な時間配置できるように、増員については検討していきたいと考えております。

電子黒板については、デジタル教科書の導入に伴って力を発揮する機器の一つだと思います。

国でもデジタル教科書検証事業を前に進めておりますし、本市でも指導者用のデジタル教科書の導入について、検討をしております。

今後どのように組み合わせていけば、子どもたちの学びを効果的に高めることができるのかということを検討していきたいと考えております。

市長 委員、事務局からの回答について、いかがでしょうか。

委員 ありがとうございます。確かな答えをいただいたので、心強く思いました。

市長 電子黒板については、教育委員会から予算要求がされています。予算に限りがあるので一気には進めることが難しいのですが、有効だと聞いておりますので、市としても少しでも早く各学校に行き渡るように努力していきたいと思っております。

それでは御意見がございましたらお願いいたします。

委員 タブレットを活用した授業が始まったばかりなので、先生方はまだまだ準備や資料作りに大変かと思います。

そういった準備が整って、授業がスムーズに行えるようになって、時間に余裕ができたなら、子どもたちと向き合う時間を作って、子どもたちの心を豊かにするような教育に力を注いでいただけたら嬉しいと思います。

資料の 35 ページには、市内の公共施設や民間施設がありますが、日立市には農業もあるし、海や山もあるし自然環境にも恵まれた立地にある都市だと思いますので、そういうこともいかした人材育成教育を行っていただけたらいいなと思います。

国際理解教育でも、オンラインを使つての活動は効果がある取組になりますし、離れていてもできることなので、そういう活動を通して、相手の意見を聞いたり、自分の意見をはっきり言ったり、諦めずに何でも挑戦してみるとか、前向きな姿勢を子どもたちに学んでもらえたら嬉しいと思います。

市長 委員からの意見について、事務局からお答えをお願いします。

指導課長 委員から御指摘をいただいたとおりでと思っています。

ICTはもちろん重要ですが、その一方で、これまでも大事にしてきた豊かな体験活動は、子どもたちの感性を磨き、主体的な学びを生むと思っています。

また、子どもたち同士、子どもと教員、大人との交流の場となりますし、人間的な成長が期待できるものだと考えております。

本市には、委員がおっしゃられたように、海と山に恵まれた豊かな自然、歴史や伝統文化、そういった教育資源が豊富にありますので、体験活動のための十分な時間を今後も確保したいと考えております。

国際理解教育については、リモート会議ができるようになって、世界中の方々との距離が本当に縮まりました。

やはり、多様な人々と共存していくためには、聞く力、意見を述べる力が重要だと思っています。

日本全体でも同じような傾向が言えるかもしれませんが、本市の子どもたちは、自分の国や地域のことを発信したり自分の意見を自信を持って述べたりすることが、どちらかという苦手としている傾向がありますので、対面だけでなくオンラインのツールもいかしながら、子どもたちがチャレンジできる場を数多く提供していきたいと考えております。

以上です。

市長 なかなか仲間と打ち解けられない子どもたちのために、ICTを上手に活用し、まずはオンラインで話をしながら、徐々に人との接触の機会を増やしていき、実際に会ってみるといったような、段階的交流の手法を構築できるかもしれません。

委員より、国際理解教育についての活用についても御発言いただきましたが、本市はアメリカのバーミングハム市とニュージーランドのタウランガ市と姉妹都市交流をしておりますが、今は実際にお会いして交流することができないので、私も是非とも向こうの市長さん方とオンラインで交流したいと考えております。

国際交流にもこのツールは大いに役立つだろうと思っております。
続きまして、御意見がございましたらお願いいたします。

委 員 私からは、感想と確認したいことについてお話しさせていただきます。

昨年の総合教育会議から現在までを振り返ってみると、教育委員会をはじめ、各学校でスピード感を持って工夫して対応されていると感じました。

感染症対策についても理解を深めながら、できるだけ対面で授業が行えるように工夫されており、教育委員会の想いのようなものをととも感じました。

そういう中で、学校教育に対する市民からの評価ということも今日の資料でよく分かったのですが、ICTの授業を実際に受けている児童生徒は、どのような感想や要望があるのかというところが気になったところです。

私は、不登校の子どもたちとも面接をする機会がありますが、ICTの便利さではありますが、継続してICTを活用して面接していくことが難しいことや空気感のようなものが伝わりづらいということがあります。

対面の良さというものもあるので、先ほど市長からのお話にもありましたが、段階的にICTを活用したり、直接会うことの良さを確認したりしながら、上手にやっていると良いのかなと感じています。

この一年間ICT機器を活用してきたことについて、一度評価・点検して、これはICTが良いのかなとか、対面の方が良いのかなとか、そういうことも見直していく時期にも来ているのかなということも改めて感じているところです。

私からは、以上です。

市 長 ありがとうございます。
委員からの御意見について、事務局からお答えをお願いします。

指 導 課 長 委員からの質問の一つ目、ICTの活用に関する子どもたちの声はどうかということについて、私も各校を訪問して、子どもたちの声を聞いてまいりました。

先生方は、初めての試みでありましたが、学校と各家庭をつないで子どもたちの表情を見ながら工夫して授業を進めていました。

子どもたちからは、今までは、教室にいれば手を挙げて発表するという選択肢だけだったのですが、リモート授業だとチャットで質問ができるので質問がしやすかったという声がありました。

実際に裁縫をやっている画像をアップして見せながら指導をしたりするなど、そういった先生方の取組に対して、「授業が分かりやすかった」という声も届いています。

また、「先生はできるのかなと思っていたら、先生はすごく頑張って使っていたね」という励ましの声を子どもたちからもらったということも聞いております。

一方で、委員がおっしゃるように、「本当に聞きたいことは、そばで手取り足取り教えてほしかった」という声もありました。

I C Tを導入した評価の件については、今後実践を積み重ねながら、対面の効果が高い取組、I C Tで効果が高められる取組、組合せで効果を高められる取組を評価するとともに、児童生徒、先生方、市が目指す目標を設定し、いわゆるP D C AサイクルでI C T導入による効果を高めていけるように、特にチェック、評価・検証の部分と、アクション、改善の部分をしっかりやっていきたいと考えております。

以上です。

市長 ありがとうございます。委員いかがですか

委員 よく分かりました。ありがとうございます。

市長 続いて御意見がございましたらお願いいたします。

委員 最近ニュースで教員の人員不足について取り上げられていることがございます。

I C Tの面でも、教員が不足しているところに補填されないとならないのかなと思っています。

先ほど情報教育主任の話も出たと思いますが、先生方の業務が多くなってきていて、できれば教師でなくても資格を持っていなくてもできる仕事は、外部の人材をいかしてやっていただくなどができるの良いのではないかという感想を持ちました。

また、各家庭でタブレットを1台持てる状況なので、家庭訪問や授業参観、学校便りなどにもどんどん利用して、先生の負担が軽減できるようにしていくと良いのではないかと思います。

さらに、先生が少なくなっても特定の先生がタブレットで授業を配信すれば、いろいろな学校で活用ができると思います。

例えば、オンラインの英会話などを利用して、各学校で、各教室で、各個人で学べる機会があってもいいのではないかと思います。

I C Tを利用するのであれば、教員の負担にならないような利用の仕方も考えていただければと思います。

以上です。

市長 委員の御意見に対して事務局から回答をお願いします。

指導課長 委員から御指摘いただいたとおりでございます。

教員の業務負担は、大きな課題です。

教員のなり手がなかなかいないということがニュースで大きく報道されているところですが、ICTを活用しながら教員がチームとなって得意分野をいかして複数の学校に配信をして授業を行うことも当然可能であると思っております。

そして何よりも日立市には、外部・地域の人材がたくさんいらっしゃいますので、そういった人的資源、教育資源をいかすということも大切だと思っております。

ICT機器が整備され、こういった取組が推進されていく中で教員の負担も軽減できるような部分も十分に踏まえながら段階的に進めていければと思います。

以上です。

市長 委員、いかがでしょうか。

委員 教員の負担軽減についても是非考えていただければと思います。よろしくをお願いします。

市長 非常に順応性が高く、速やかに対応できる先生がいらっしゃる一方で、ICTに馴染めない先生方もいらっしゃると思います。

ICTの活用について、負担に感じている先生もいらっしゃると思うので、先生方のサポートをどのようにやっていくのかということも課題であると思います。

指導課長から話がありましたように理科クラブの方々も教育の資源であると考え、ICTに理解の深い方々にサポートしていただくなど、新たな展開ができるようになれば、先生方の負担も軽減されるのではないかと思います。

私としても、限りある予算の中ではありますが、しっかりとサポートをしていきたいと思っております。

委員の皆様からも御意見をいただいたように、デジタル社会を生き抜くためにも、子どもたちにしっかりとICTを活用した教育を進めていかなければならないと思っております。

一方で、総合計画でもお示しましたが、子どもたちの確かな学力や豊かな心、健やかな体の育成という、学校教育の普遍的なものとの関係をどのように考えていくのが大切なのではないかと思います。

「デジタル時代の質の高い学校教育の実現」ということをテーマに、日立市の学校教育が大切にしていけるべきことについて、御意見を伺いたいと思っております。

委員 市長もおっしゃっていたように、学校教育の根本的な部分は大きく変わらないのではないかと思います。

何を子どもたちに身に付けさせるべきか。

それは、デジタル社会になってからもそれほど変わらないものもあるわけですから、そういうものを大事にして、見失ってはいけないと思います。

委員から相手の意見を聞き自分の意見を述べるという発言がありました。これは、今の子どもたちに足りない部分なのではないかと思えます。

もう少し自分の考えを持って意見を述べるという力を身に付けさせたいと思えます。

日本人はそういう力が育ってっていないと言われますし、これからのデジタル社会においても自分の意見をしっかりと発言できる人間に育ててほしいと思えます。

これは、ひたらしさをいかした教育に加えてもいいのではないかと思えます。

対面で話すことが苦手でも、オンラインでは話すことができるという子もいるのではないかと思えます。40人近くいる教室の中では発言できなくても、ICT機器の前では言えるという子もいます。

場合によってはICTを利用して、自分の意見をきちんと述べる力、コミュニケーション力と言った方がいいのかもしれませんが、そういったものを育てていくようにしていくべきだろうと思えます。

市長 今の委員の意見について、事務局から回答をお願いします。

指導課長 委員のお話にありました、コミュニケーション力、これは非常に重要だと思います。

学校は、知・徳・体をバランスよく身に付け、人間形成を図っていく場です。

その中でコミュニケーション力を向上させ、相手の意見をきちんと聞いて、自分の意見を述べられるという力をつけることは非常に重要です。

円滑な人間関係作りとか、合意形成を図るとか、あるいは問題解決を図るとか、新たな価値を作ることにもコミュニケーション力は基盤になると思えます。

子どもたちが、学校教育の中で自分の考えを持ち、それを伝える力を身に付けられるよう、学びの場を意図的に設定していくことが重要だと考えております。

委員がおっしゃったようにICT機器だと自分の意見を言えるという子どももいると思えますので、ICT機器を上手に使いながらコミュニケーション力の育成を図っていきたいと思えます。

以上です。

市長 やはり、自分が他者とどう関わるかということが一番大切なことだと思います。

生まれてから高齢者になるまでいろいろな方との出会いがある中で、避けては通れないことだと思っています。

コミュニケーション能力は非常に大切なものなので、ICTをツールとして活用しながら、自分の意見を述べる、直接話をするということを組み合わせてやっていけると良いのではないかと思います。

人の話を聞いたり、話したりすることは、運転と同じように繰り返し訓練をすることで身に付いていくものだと思います。

人の考えをよく聞き、自分の考えを述べること、これがコミュニケーションの基本中の基本だと思うので、非常に大切にしてほしいと思うところです。

次に、御意見がございましたらお願いいたします。

委 員 市長からもお話があった東日本大震災やコロナは、私たちにとっては想定外の出来事でした。

そう考えると、これからもどんな想定外のことが起こるか分からない中で、子どもたちが自分で正しい判断をして、力を発揮して社会に貢献できるということが非常に大事なことであると思っています。

それは、ICTを活用しただけではできないと思うので、学校で先生方と関わったり、お友達や地域の方々と関わる中でうまく培ってほしい力だなと親としても思います。

皆さんの話を伺いながら思ったことは、ICTが入ったことで、学習の個別化が図られていって、学習レベルが上がっていくことは良いけれども、先生たちが頑張っていくら良い資料を提供しても、子どもたちのモチベーションがそこになれば学力が上がっていかないと、子どもたちのモチベーションをどのように上げるか、ということも一つの課題かなと思いました。

これからいろいろな課題が見えてくるかもしれませんが、先生方にはICTを上手に活用していただきたいと思っています。

以上です。

市 長 今の御意見に対して、事務局から回答をお願いします。

指 導 課 長 委員のお話の中で、ICTの効果的な活用、レベルアップは、もちろん重要ですが、子どもたちがどんな状況でも正しい判断ができる、考えて行動ができる、社会に貢献できるということは非常に大事なことで感じています。

先ほど市長からもございましたが、人と関わる力をどう育てていくか、協働して知恵を絞ってやり抜く力を身に付けていくことは非常に重要です。

学校現場の中で、子どもたちのモチベーションが大事だというお話がありましたが、そのカギを握っているのは、一人一人の先生なので、子どもたちの実態や良さ、可能性を見極めながら指導を加えていくと

ということが大事だと思っております。

今後、ICTを進める中でいろいろな課題が出てくると思っていますので、委員がおっしゃったように、一つ一つの課題に対応していきたいと考えております。

以上です。

市長 委員からお話のあったように、ICTをより良く活用していくことが大きな課題なのかなと感じております。

怖いのは、先生や保護者が、タブレットを渡しているから子どもたちが勉強しているだろうという誤解をしてしまうのではないかと思います。

どうやって勉強に向かわせるのかや人の話を聞く力をつけるのか、人とどう交流するのかとかいうことを考えながら、ICTを活用していくことが大事なのではないかと思います。

その他御意見がございましたらお願いいたします。

委員 私も皆さんと同じような意見ではありますが、これまでオンラインが始まる前からも「対話的な学び」ということは取り上げられてきたとは思いますが、ICTを使った「対話的な学び」は形が違ってきているのではないかと思います。

オンラインでやり取りをするにしても、どういうタイミングで話すのかという間や、ルールやマナーが共通のものになっていないということもあると思いますので、そういう細かい部分が分かってくると、よりコミュニケーションが円滑になっていくのかなと思います。

先ほど委員からもモチベーションの話がありましたが、私を感じていることとして、貧困問題も関連しているのではと感じています。

オンラインを自宅でやるようになると家庭環境によっては、参加する状況が変わったり、学びに対する姿勢や授業で学んだこと以外で家族にサポートしてもらう部分は、だいぶ差が出てくるのではないかと思います。

また、そういった部分について、誰よりも気付くことができるのは、学校の先生方かと思っておりますので、気付いたときは、共有をしていただいて、どうすると子どもたちがやる気になるのかや貧困問題が関係しているのではないかという部分をキャッチしていただけたらいいのかなと思いました。

先ほど市長が運転の話をされていましたが、信号などの交通ルールは変わらないものですが、乗り物自体はマニュアル車から電気自動車になってきていて、乗り物は変わってきたということがあるので、そういった変化に慣れていくことは、大人も子どもも大事なことなのかなと思いました。

私からは、以上です。

市長 今の委員のお話について、事務局から回答をお願いします。

指導課長 委員からのお話について、これまでも学校教育の中では、グループでの活動、「対話的な学び」を大切にしてきました。ただ、ICT機器の導入により、より可能性というか、方法が多様化してきました。ルールやマナーについては、今年度は、その都度どういった形でやっていくのか、その場その場で対応しているのが現状です。今年度活用してきた中で、学習のルールや授業の進め方、授業スタイルを確立していく必要があると思っております。もう一点、重要な視点として、サポートが必要な家庭についてです。子どもたちの様子を見極めて、支援をしていくことは、先生の重要な役割ですので、常にそういったところに目配り、気配りができるように、学校に助言・指導をしていきたいと思っております。以上です。

市長 子どもたちは、私たちの考えが及ばないくらいのスピードでICTに対応していくのだと思います。逆に先生方が、子どもたちの後ろを追いかけていくようなこともあるかもしれません。ICT機器の使用方法についての指導のいかんによっては、子どもたちの間の差が広がってしまう可能性があります。そのため、先生方や教育委員会が現実を捉えながら、指導をしていくことができるか、ということが大事だと思います。委員がおっしゃっていましたが、直接会う時の空気感を読むことができるかということが非常に大切です。ICTのやり取りのみでは、その空気感を感じられない部分があると思います。直接人と会う中で「相手がどう考えているのかな」、「今、自分が話してもいいのかな」というような、空気感を読みながら人と接していく、交流していく力も、子どもたちに身に付けてほしい力の一つであると思います。それでは、更に委員から御意見をいただきたいと思っております。

委員 日立市が学校教育で大切にしていけるべきこととして考えるのは、リーダーシップです。一人の強力なリーダーシップではなく、各個人がリーダーシップという主体的な力を持っていくべきなのではないかなと思います。これからの人材に必要な能力は、英語、理系の力とかいろいろあると思いますが、やはり、主体的な力を身に付けてほしいと思っております。それが、皆さんがおっしゃっていたコミュニケーション力にもつながっていくと思っております。最近では、主体性を発揮する訓練をする機会が少なくなっているの

ではないかなと感じております。以前はあった、学級委員長や班長というものがなくなっている学校もあるようで、一人一人が経験をする場が少なくなってきたのではないかと考えています。

会議の場で全員が一度は司会をやってみるという経験をして、人の話を集約して発表するという経験をしていけば、コミュニケーション能力が付いていくのではないかなと思います。

そういったところにICTを活用していただければと思います。
以上です。

市 長 委員からの御意見について、事務局から回答をお願いします。

指 導 課 長 委員からお話いただいた、一人一人のリーダーシップ、主体的な行動を図れる機会を設けることは、非常に重要だと思っております。

ICT機器を活用してクラス中での意見交換を活発にしたり、学年の枠を超えた取組もできます。また、他校やいろいろな方ともリアルタイムで意見交換をすることもできます。

子どもたちには、一人ひとりの良さや可能性があるもので、それを引き出すためにも、リーダーシップを体験する場を作り、子どもたちが成功体験を積み、周りの人がそれを評価していくことで、子どもたちも自信を持ってより成長できるのかなと考えています。

そういった意味でも、リーダーシップを体験できる場を学校、学級の中で設定していければと考えております。

以上です。

市 長 委員の皆さんからICTを活用したこれからの取組やデジタル社会における質の高い学校教育について御意見をいただきました。

これまでの話を聞いた中で、教育長から御意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

教 育 長 いろいろな御意見ありがとうございました。

また、各委員、市長から示唆に富む御指摘をいただきました。

例えば、日立市の教育資源をいかした郷土の歴史や伝統文化の学習。

コミュニケーション能力の向上。

学びに向かう意欲や自己肯定感や自己有用感。

多様な友達と協働しながら、学ぶということ。

空気感を感じながら、直接会ってというお話もありました。

そういうことは、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらないもの、教育では「不易」と言われるものと考えます。

人間性や、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心、そういうものを育てるということも「不易」ではないかなと思います。

一方、時代の変化とともに変えていく必要があるもの、いわゆる「流

行」に適切に対応していくことも教育に課せられた課題であると考えます。

司会やまとめる経験、いわゆる「ファシリテーター」といったことも経験して、一人一人が主体性を持って、答えの無い問いに取り組むことができる力を育成することが大切だという意見もいただきました。

また、想定外のことに対応できる力を育成することが大切だという御意見もいただきました。

今までどちらかというと知識としての正解を教えて、子どもたちはそれを覚えるという面がありました。

これからは、今までよりも更に思考力や応用力を育成するために、ファシリテーションを活用した子どもたち主体の授業づくりも大切だと思います。

先ほど市長のお話にもあったとおり、Society5.0の時代を迎えるに当たっては、大切なのはICTを最大限に活用して、快適なオンライン生活をできる力、そして、責任ある市民として社会に参加するための知識や能力を育成することも大事かと思えます。

現在、日立市ではNIEにも取り組んでいますが、現実の社会や未来に目を向けて、インターネットにあふれる情報を整理・活用して課題を解決する能力を育むことが必要だと考えております。

常々言っておりますが、教育の「不易と流行」をしっかりと捉えて「ひたらしさ」をいかした教育をこれからも推進していきたいと考えておりますので、皆さまの御協力をこれからもよろしくお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

市長 教育長からお話がありましたように、時代を超えても変わらない「不易」と時代の変化とともに変えていく必要のある「流行」のベストミックスにより、未来を切り拓くことのできる子どもたちの成長を後押ししていただくように、引き続き皆さま方の支援をお願いしたいと思っております。

デジタル社会の中でICTを効率的に、効果的に活用していくためにも、人を愛し、郷土を愛し、家族を愛するという、人として基本となる部分が大切ではないかと思えます。

教育の中で是非そういった部分を培っていただき、子どもたちが、心豊かな人間に育ってほしいと願っております。

私も、日立市の子どもたちが豊かに成長し、世界を担う人材として羽ばたいていくことができるように、全力で応援してまいりたいと思っております。

本日いただいた御意見は、貴重なものばかりでございました。

これからも総合教育会議の中でいろいろなことについて、皆様との意見交換を図っていききたいと思っております。

議論は尽きませんが、以上を持ちまして、本日の総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。
事務局にお返しします。

3 閉 会

教 育 部 長

長時間に渡り意見交換いただきありがとうございました。
事務局では、本日の御意見をもとに施策の形成を図ってまいりたい
と思います。
以上を持ちまして総合教育会議を終了いたします。

以 上